

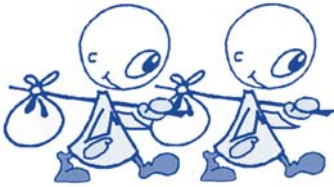
「わたしを遣わしてください」

10月 宣教の月

第2日曜日 2020年10月11日

メッセージ:ヨゼフ・アベイヤ司教

ともに生きる



わたしたちは今回「人類家族全体を一つにして、持続可能で全人的な発展を追求する」(教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』13)こ

とが重要だと気づきました。

よくも悪くも、一つ一つの行動は、それで完結する独立したものではありません。わたしたちがともに住む家(地球)では、すべてのことが相互に結びついていて、必ず他に影響するからです。

それゆえに「愛の文明」という、今とは違う生き方を恐れないでください。それは、「希望の文明です。苦しみや恐れ、悲しみや落胆。受け身や無気力と闘う文明です。愛の文明は、毎日こつこつ築かれるのです。あらゆる人の、献身的協力が必要です。ですから、兄弟姉妹による熱心なかかわりをもった共同体が必要です」(教皇フランシスコ『パンデミック後の選択』57頁)。神の心にかなう聖性を求めるなら、この箇所が、わたしたちの裁かれる基準をはっきりと教えてくれます。「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気的时候に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ」(マタイ25・35-36)(参照:同教皇使徒的勸告『喜びに喜べ』95)



イエスと出会い、ともに出向いていく

「イエスとの人格的な出会いの喜びを、日常生活の中で神と隣人への愛として広げていくために、わたしたちは出向いて社会の福音化に奉仕します。今日の日本の文化や社会の中には、すでに福音的な芽生えもありますが、多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧、差別している現実もあります。キリストの力でこの芽生えを育て、全ての人を大切にする社会と文化に変革する福音の担い手になりましょう。」（ともに喜びをもって福音を伝える教会へ、「福音宣教のための特別月間」（2019年10月）に向けての司教団の呼びかけ）

人類の中で共に歩む教会

	人口	カトリック	%
アフリカ	1.220.670.000	234,040,000	19.2%
アメリカ	999.485.000	673,374,000	63.8%
アジア	4.428.782.000	145,448,000	3.3%
ヨーロッパ	719.077.000	285,771,000	39.7%
オセアニア	40.360.000	10,644,000	26.4%
総計	7,408,374,000	1,313,278,000	17.7%

（「日本カトリック司教協議会イヤーブック 2020 年」より）

人類に奉仕する教会

	信徒宣教者	カテキスタ	修道者	司祭	大神学生
アフリカ	8,673	415,873	86,465	45,229	30,462
アメリカ	306,112	1,755,747	206,588	122,447	32,389
アジア	29,233	373,615	200,418	66,018	34,750
ヨーロッパ	10,592	526,623	291,572	176,557	17,615
オセアニア	133	14,431	9,514	4,718	944
総計	354,743	3,086,289	794,557	414,969	116,160

「ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り」

喜びの源である神よ、
あなたは、御子キリストを遣わし、
その受難と復活を通して、
救いに導く喜びの福音を
この世にもたらしてくださいました。



また、あなたは、キリストの後に従う働き手を通して、
諸国の民に福音を告げ知らせ、どんな逆境にあっても、
キリストを信じる人々の喜びを支えてくださいました。
さまざまな困難に直面している現代社会の中で、
人々の救いに奉仕する教会を顧みてください。
キリストの救いの喜びを
新たな熱意、手段、表現をもって伝えることができるよう、
わたしたちを聖霊によって強めてください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(日本司教団・2019年10月「福音宣教のための特別月間」のための祈り)

振り返り



1. このパンデミックのときに、誰が、
何が頼りになっているでしょうか。
2. 教会共同体として、どのようにお互いの
関わりを持ち続けているでしょうか。
3. 宣教活動は、どのように行っている
でしょうか。

(祈りのうちに考えて、他の信徒と話し合ってみてください)

主日の福音から黙想のヒント

王子の婚宴のたとえ (マタイ 22・1-14)

婚宴はキリストが私たちと
愛の絆で結ばれたことの祝い。
招待状を持って人々を招きに行く
家来はわたしたち宣教者。
招かれた人々は全人類。

フランシスコ教皇のことば



「わたしたちは心底おびえ、途方に暮れ、不安にさいなまれています。痛みと死により、人間のもろさを痛感していますが、それと同時に、だれもが生きたい、悪から解放されたいという強い思いを抱いていることに気づかされます。こうした状況においては、宣教への呼びかけと、神と隣人への愛のために自分の殻から出るようにとの招きは、分かち合い、奉仕し、執り成す機会として示されます。神から各自に託された使命は、おびえて閉じこもる者から、自分を差し出すことによって自分を取り戻し、新たにされる者へとわたしたちを変えるのです。」
(2020年「世界宣教の日」教皇メッセージ)